

BIBLE + MESSAGE

喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。

(ローマ 12章 15節)

聖書は、相手が喜んでいるならば一緒になって喜び、相手が泣いているならば、一緒になって泣きなさい、と語っています。つまり相手の気持ちを理解し、寄り添うことが大切であると教えているのです。自分に何か嬉しいことがあったとき、他の人の喜びに共感することは簡単です。また、自分に何か悲しいことがあったとき、他の人の悲しみに共感することもできるでしょう。しかし、自分の状況に関わらず、相手に寄り添うことは、とても難しいと思います。

嬉しい気持ちのときに、悲しむ人に寄り添うことができるでしょうか。悲しい気持ちのときに、他の人の喜びに共感することができるでしょうか。自分を中心にして考えるならば、なかなかできません。しかし、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」というキリストが示された愛を知るとき、人は喜ぶ者とともに喜ぶ者。泣く者とともに泣く者へと変えられることを聖書は教えています。



- ◆名鉄バス「日名町」前
- ◆愛知環状鉄道「北岡崎駅」から西へ徒歩3分
- ◆アピタ北岡崎店 筋向かい



スマホで上記のQRコードを読み込むと地図を表示できます。

【日曜学校】日曜：午前 10 時～ 10 時 45 分 【礼拝】日曜：午前 11 時～ 12 時半
【午後の集会】日曜：午後 3 時～ 4 時半 【聖書研究会】木曜：19 時半～ 21 時

聖書を読んだ日本人

(前号からの続きです)

ある日、診療所の医師が源三にこう言いました。「私の質問に『はい』と答える時は、目をつぶりなさい」。医師は「まばたき」によって源三の意思を確認しようとしたのです。このことがきっかけとなり、源三は自分の意思を伝える手段を見出すのです。それは五十音表を使った方法でした。

例えば「鳥(トリ)」という言葉葉の場合。源三の母親が五十音表の一番上の行を右から左へ「ア・カ・サ」と指でなぞっていきま

ワ	ラ	ヤ	マ	ハ	ナ	タ	サ	カ	ア
	リ		ミ	ヒ	ニ	チ	シ	キ	イ
ヲ	ル	ユ	ム	フ	ヌ	ツ	ス	ク	ウ
	レ		メ	ヘ	ネ	テ	セ	ケ	エ
ン	ロ	ヨ	モ	ホ	ノ	ト	ソ	コ	オ

して、「ラ」のところで目をつぶり、「リ」のところで目をつぶることで、「トリ」という言葉を伝えたのです。自分の意思を表現できるようになった源三が、詩のようなものを作ったのは、15歳の時だったそうです。ある日、源三が何か言いたそうにしているのを、母親が五十音表で文字を拾うと、「庭の隅

寒菊に 雪降りかかる」という句になったそうです。この日から、源三と母親との創作活動が始まったのでした。源三の作品のなかに「生きる」と



創作活動中の源三

は、いつしか「瞬きの詩人」と呼ばれるようになったのでした。



水野 源三
(みずの げんぞう)
1937年～1984年

いうタイトルの詩がありますので紹介したいと思います。

「生きる」
神様の大きな御手の中で
かたつむりは
かたつむりらしく歩み
蛍草は 蛍草らしく咲き
雨蛙は 雨蛙らしく鳴き
神様の 大きな御手の中で
私は 私らしく 生きる